

7月30日(日)発行

MUZA  
KAWASAKI  
SYMPHONY HALL

# ほぼ 日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza

## オーケストラの醍醐味と 名人芸を満喫！



7/29 NHK交響楽団

©T.Tairadate

土曜午後のNHK交響楽団公演。当然の如く満席だ。キンボー・イシイの指揮で、プログラムはロシア物。これは名人芸飛び交う濃密なコンサートとなった。

前半はラフマニノフのピアノ協奏曲第2番。2021年ショパン・コンクール3位のマルティン・ガルシア・ガルシアが、本日最初の名人芸を披露する。ファツィオリを弾く彼の音は陽気で強靱。冒頭から、暗いロシアの鐘ではなく、陽光へと向かう希望の鐘が鳴り響く。オーケストラは豊麗で重厚。このホールで聴くと、伝統のN響サウンドが今も健在であることを再認識させられる。

だがガルシア・ガルシアも負けていない。彼は終始ダイナミックな演奏を続け、オーケストラと渡り合う場面も消されずに主張する。それと相まって、豪壮で明朗なラフマニノフ音楽が展開された。同じくラフマニノフの前奏曲 Op. 32-13のアンコールも強靱だ。

後半はリムスキー＝コルサコフの「シェエラザード」。冒頭から重層的な響きが耳を押し、その後はN響各パートの名人芸の嵐となる。ヴァイオリン独奏はコンサートマスターの郷古廉。ソリストとしても活躍する彼だが、ここは大仰な主張などせず、正確かつ繊細なソロを奏でる。

それにしても、チェロ、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット……と次々に繰り出される闊達で雄弁なソロは実に見事。イシイは曲の特質を的確に描き、第4楽章など迫真力十分だ。アンコールの「熊蜂の飛行」も洒落た選曲、ここもフルートの妙技に酔わされる。

“重厚で上手い”オーケストラの醍醐味と種々の名人芸を満喫した公演。その充足感が心地よい。(柴田克彦/音楽評論家)



プレコンサートの様子



左：キンボー・イシイ(指揮)  
右：マルティン・ガルシア・ガルシア(ピアノ)

### ご来場者の声

演奏のレベルが非常に高く、惹き込まれました。見事で鳥肌が立ちました。こういう演奏に出会いたくて演奏会に足を運ぶのですが、今日もそんな嬉しい出会いが叶い、感動の記憶がまた1つ増えました。(60代・無職・アラレ) / いつも存在感のある郷古さんのヴァイオリン、各パートのソロ、N響の重厚な響きを心ゆくまで聴けて幸せでした。(50代・しみしみ) / 4年ぶりのプロのオーケストラのコンサート。それも響きの良いミュージア川崎でのN響のシェエラザード。とても満足です。(60代・フィデリオ) / FAZIOLIの美しい音色のピアノを、かくも力強い音で演奏したガルシア・ガルシアのラフマニノフは素晴らしかった。これから何回でも聴いてみたいピアニストである。(60代・無職・なし) / ガルシアの重厚な情感豊かなラフマニノフと、本当に演奏が素晴らしいN響のシェエラザード、凄く良い演奏会でした。郷古廉さんのヴァイオリンはもちろん、特にフルートの方の音が素晴らしくて聞き惚れていました。皆様素晴らしい演奏でした！(50代・ピアノ教師・匿名)ガルシアさんもN響さんもサイコーです！(40代・会社員・エネゴリ)

【明日の朝刊休みます】明日(7/31)は休演日のため、本紙の発行もお休みさせていただきます。次号発行は8/1です。

**Next!**  
サムミュージック  
明後日のチケット情報

読売日本交響楽団  
サマーミュージック初登場!オペラの名匠ヴァイグレ×指揮  
8/1(火) 19:00 開演 (18:00開場)  
会場：ミュージア川崎シンフォニーホール

Tel・Web予約  
▶ 当日 17:00 まで  
当日券カウンター  
▶ 18:00 より

当日券あり

ほぼ日刊サマーミュージックはWebでもご覧いただけます。

プレトーク (18:20~18:40)  
指揮者によるプレトーク  
※本公演と同じお席でお楽しみください。

- ベートーヴェン：交響曲第8番
- ワーグナー(デ・フリーヘル編曲)：楽劇『ニーベルングの指環』～オーケストラ・アドヴェンチャー

【料金】 S¥6,000 A¥5,000  
B¥4,000 U25: 各席種半額



マエストロ・ヴァイグレからのメッセージだトン♪



指揮：セバスティアン・ヴァイグレ





7/29 神奈川フィルハーモニー管弦楽団  
出張サマーミュージア@しんゆり!

© 藤本史昭

## 切れ味の良い指揮、 協奏曲の「付け」も巧み

2023/24シーズンからドイツ・ハノーファー州立歌劇場第2カペルマイスターに就き、年間30公演ほどのオペラを指揮することになった熊倉。

NHK交響楽団と当時の首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィのアシスタントを務めていた時期の2018年に指揮者デビュー、同じ年のうちにショスタコーヴィチの「交響曲第10番」でN響との

フェスタサマーミュージアに抜擢され、東京国際音楽コンクール〈指揮〉でも第3位に入賞、2021年からドイツでオペラ指揮者の修行を積んできた。あらゆる「合わせ物」の中で最も難易度の高いオペラの現場で腕を磨いた成果は神奈川フィルとの共演でも遺憾なく発揮され、切れ味の良い指揮で弦のアンサンブルと音色を整え、木管や金管のソロを

際立たせていく。協奏曲の「付け」も巧みだ。最初に作曲を学んだ影響か、デビュー当時は細かいところに入り過ぎて流れの淀む瞬間が気になったが、今回は全体の見通しが格段に改善、一貫した起承転結に長足の進歩を実感した。

横坂のチェロは太く温かく底光りのする音色でじっくりと歌いこみ、必要以上に華やかなピールを避ける一方、技巧的パッセージも適確に再現した。

古海のピアノは中間部のジャズ風の雰囲気強調などに独自の工夫がみられた半面、基本ダークな傾向の音色に変化が乏しく、いささか地味な演奏に終了した。ここでも好調だった神奈川フィルの管楽器群だったが、《ボレロ》のソロのリレーには時々ヒヤリとする瞬間があり、さらに上の水準を目指してほしいと願った。

(音楽ジャーナリスト/池田卓夫)



アンコールにハープと「白鳥」を披露する横坂



左から、熊倉 優/古海行子/横坂 源 (指揮) (ピアノ) (チェロ)

## ご来場者の声

チェロの低い暖かい重低音が、夏の暑さをやわらげてくれるような響きがあって癒されました。オーケストラが息をあわせて一体感を創り出しているところが感じられました。ピアノの音だけを聴いていると左手だけとは思えないほど、多彩なメロディーでした。弾いているところを見ると、とてもダイナミックですごみがありました。(40代・会社員・クマたろー) /左手のためのピアノ協奏曲が良かった。ピアノが素晴らしかった。オーケストラも素晴らしかったです。(40代・教育関係・ちゃんフミ) /プーランク、サン＝サーンス、ラヴェルと夢の国にいたようだった。(匿名) /コンツェルトが2曲も聴けて、大好きな牝鹿とボレロも生で堪能できて最高でした！(40代・医師・匿名) フランスらしい華やかな演奏で楽しめました。(40代・会社員・はち)



パートナーショップのご紹介  
エンジョイ!  
川崎!!  
Enjoy Kawasaki



クリームたっぷりのミルクフランスと  
甘さスッキリなリッチミルクラテ  
¥780(税込)

## 公演前後の軽食や休憩におすすめのカフェ

JR川崎駅中央改札からすぐのアトレ内にある「COFFEE MILK」はリッチなミルク商品が楽しめるカフェになっています。

私が今回頼んだのは、ミルクフランスとリッチミルクラテ。朝7時〜昼3時までのお得なブレッドセットで注文しました。

ミルクフランスはとーっても甘いのですが、一緒に頼んだ

リッチミルクラテはすっきりとした甘さでバランス良い組み合わせを楽しめました!

ドリンクの種類も豊富で、甘党の方にはシェイクやチョコレートリッチミルクもおすすめ。甘党でない方は、香り良いコーヒーや、さっぱりとした限定のサイダーなども。

これを読んだみなさんぜひ

ひ、自分のお気に入りを探してみてください♪(新人・道明寺)

COFFEE MILK

パートナーショップ特典 F アトレ川崎

飲食代10%引き ※優待券持参者および同伴者

ホール内でも  
ほっと一息つきませんか?  
限定コースタープレゼント!

ホール2Fドリンクコーナー  
期間限定営業中

フェスタサマーミュージア公式サイト  
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/

#サマーミュージア  
#お待ちどうサマー♪  
で検索 & 投稿  
お待ちしております!



Twitter : @summer\_muza  
Facebook : @kawasaki.sym.hall  
Instagram : @muzakawasaki

「早番は、小さな冒険だ。」  
設備担当の早番は、毎朝ホール内の93個の足元灯の管球切れを中心に点検する。螺旋状の客席をほぼ一筆書きで、一階から四階までを一気に仕上げるのだ。それはまるで、山登りの様である。山あり谷あり、様々な景色を見せてくれる。例えば、ホールの中として鎮座しますパイプオルガンは、5248本の銀色のパイプを従え、滝を彷彿とさせる。遙か高みから音の飛沫をホール中に降り注ぐ大きな滝だ。オルガンは、湿度管理が重要な為、中央監視に加湿湿度計を設置し記録しているのだが、音楽の素養の無い私には全く未知の鍵盤、ペダル、レバー等が沢山あるコンソールの譜面台の奥に、それは置かれていた。これは、慎重さを要するのだ、間違つて譜面台に触れて角度を変じたりして、ノミがある。この緊張から解かれて、次に目指すのは、3階と4階(頂上)だが、それはまたいつかのお話。(設備N)

「スタッフ日誌」

日刊サマーミュージア  
Hobo Nikkan Summer Muza